

科目名 (英)	保育内容演習 Seminar for Contents of Early Childhood Care and Education	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	平岡 麻依子
学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 1限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
公立保育所に長年勤務し、0歳児から5歳児までの保育に携わる。日々の保育の中で、一人ひとりの成長を促す保育活動を行うとともに、行事の企画運営も行ってきた。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科目では、子どもへの関わり方や保育活動の計画・実践について学びます。実技やグループワークを通して、保育の楽しさを体感しながら、実践力を身につけます。自ら考え、解決策を導いていく経験、相手の意見に耳を傾けともに作り上げていく経験を重ね、保育現場で大切なチームワークを養ってほしい。							
【到達目標】							
1. 総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域を通して捉え、保育の内容について具体的に理解する。 3. 子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程の実践について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン／幼稚園教育要領 ／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド社)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 総合的な保育の展開と、集団での関わり方を理解する。 【授業内容】 授業の概要説明、挨拶と自己紹介の方法、グループワーク①「理想の保育園を考えよう！」			9	【到達目標】 教材の特性を理解し、子どもの興味を引く環境構成を考える。 【授業内容】 エブロンシアターの基礎知識、テーマ決定、アイデア出し、デザイン決定。		
2	【到達目標】 用具の特性を理解し、安全な教材研究の方法を学ぶ。 【授業内容】 糊・ハサミの特性、誤使用時のリスク、伝え方の工夫を考え、そのような制作ができるか案を出す。			10	【到達目標】 エブロンシアターの制作を教材や遊具を安全・効果的に活用するための工夫を理解する。 【授業内容】 エブロンシアター制作活動。		
3	【到達目標】 指導案の作成を通じ、環境構成と保育の過程を学ぶ。 【授業内容】 糊・ハサミを使った制作の指導案作成、制作活動			11	【到達目標】 エブロンシアターの制作を教材や遊具を安全・効果的に活用するための工夫を理解する。 【授業内容】 エブロンシアター制作活動。		
4	【到達目標】 表現領域における教材の価値と子どもの体験を理解する。 【授業内容】 糊・ハサミを使った制作物の発表。振り返り			12	【到達目標】 エブロンシアターの制作を教材や遊具を安全・効果的に活用するための工夫を理解する。 【授業内容】 エブロンシアター仕上げ作業、発表準備。		
5	【到達目標】 子ども目線での環境把握と、具体的な配慮事項を学ぶ。 【授業内容】 実際に道を歩き、危険箇所の確認や子どもの目線での発見。			13	【到達目標】 保育の過程に沿った具体的な指導案作成と演じ方を学ぶ。 【授業内容】 エブロンシアター指導案作成、グループ内発表リハーサル。振り返り。		
6	【到達目標】 子どもの体験を豊かにする、具体的な言葉かけを理解する。 【授業内容】 チャイルドコーチングの考え方の基礎を学ぶ。			14	【到達目標】 子どもの生活や体験に即した、具体的な展開技術を習得する。 【授業内容】 定期試験実技発表①		
7	【到達目標】 行事を通した5領域の関連性と計画立案を理解する。 【授業内容】 年中行事を調べ、担当行事を決める。ねらいのある保育計画づくり。			15	【到達目標】 子どもの生活や体験に即した、具体的な展開技術を習得する。 【授業内容】 定期試験実技発表②		
8	【到達目標】 子どもの発達に応じた、行事の伝え方と工夫を習得する。 【授業内容】 中間試験／年中行事を伝える			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	保育実践演習 Professional skill	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	平岡 麻依子
学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
公立保育所に長年勤務し、0歳児から5歳児までの保育に携わる。日々の保育の中で、一人ひとりの成長を促す保育活動を行うとともに、行事の企画運営も行ってきた。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科目では、子どもへの関わり方や保育活動の計画・実践について学びます。実技やグループワークを通じて、保育の楽しさを体感しながら、実践力を身につけます。自ら考え、解決策を導いていく経験、相手の意見に耳を傾けともに作り上げていく経験を重ね、保育現場で大切なチームワークを養ってほしい。							
【到達目標】							
1. 保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 自己の課題を明確化し、保育に必要な基礎的な資質、能力を定着させる。							
【使用教科書・教材・参考書】 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン／幼稚園教育要領 ／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド社)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 自己の保育観を言語化し、専門職としての姿勢を整える。 【授業内容】 授業の概要説明、挨拶と自己紹介の方法、グループワーク①「理想の保育園を考えよう！」			9	【到達目標】 自己の表現課題に基づき、適切な制作テーマを選択する。 【授業内容】 エプロンシアターの基礎知識、テーマ決定、アイデア出し、デザイン決定。		
2	【到達目標】 用具使用のリスクを分析し、指導上の留意点を考察する。 【授業内容】 糊・ハサミの特性、誤使用時のリスク、伝え方の工夫を考え、そのような制作ができるか案を出す。			10	【到達目標】 制作過程を通じて、保育に必要な基礎的な技術を習得する。 【授業内容】 エプロンシアター制作活動。		
3	【到達目標】 自身の技術課題を明確にし、実践力の定着を図る。 【授業内容】 糊・ハサミを使った制作の指導案作成、制作活動			11	【到達目標】 制作過程を通じて、保育に必要な基礎的な技術を習得する。 【授業内容】 エプロンシアター制作活動。		
4	【到達目標】 実践結果を振り返り、自らの学びの到達度を把握する。 【授業内容】 糊・ハサミを使った制作物の発表。振り返り			12	【到達目標】 制作過程を通じて、保育に必要な基礎的な技術を習得する。 【授業内容】 エプロンシアター仕上げ作業、発表準備。		
5	【到達目標】 地域・社会の安全課題を分析し、多角的な視点を持つ。 【授業内容】 実際に道を歩き、危険箇所の確認や子どもの目線での発見。			13	【到達目標】 専門的知識を統合し、自らの指導計画を客観的に評価する。 【授業内容】 エプロンシアター指導案作成、グループ内発表リハーサル。振り返り。		
6	【到達目標】 専門職として求められる、子どもの主体性への関わり方を学ぶ。 【授業内容】 チャイルドコーチングの考え方の基礎を学ぶ。			14	【到達目標】 発表を通じて自己の学びを把握し、今後の課題を明確にする。 【授業内容】 定期試験実技発表①		
7	【到達目標】 行事の意義を専門的知識として習得し、役割を考察する。 【授業内容】 年中行事を調べ、担当行事を決める。ねらいのある保育計画づくり。			15	【到達目標】 発表を通じて自己の学びを把握し、今後の課題を明確にする。 【授業内容】 定期試験実技発表②		
8	【到達目標】 自身の表現能力の課題を明確にし、伝達技術を磨く。 【授業内容】 中間試験／年中行事を伝える			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	子ども家庭支援論 Child and family care support	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	八木 ゆかり
学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 1限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 障がい児者施設、保育所保育、保育園園長、保育アドバイザー、保護者支援等「保育・教育・福祉」分野での経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 「保育・教育・福祉」分野での経験を活かし、現場力(柔軟な対応、実践的な支援・チーム力等)の知識・技術をグループワーク・実践事例を中心に習得できる授業を行う。 保育の現場で求められる「何をどのように行うか」などの技術だけではなく「何故そうするのか」「何を行うことが乳幼児に取っての発達援助なのか」など根拠をもって行うことの重要性を理解した上で、子どもや保護者の生活がより豊かになるような環境を考え述べるができる。							
【到達目標】 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 授業内で学んだことを実践またはpcおよび書籍などを利用し、自分なりに考え、課題を見つけるなど問題意識を身に付ける			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ・子ども家庭支援の意義、役割について理解する 【授業内容】 ・授業オリエンテーション(授業の進め方を知る) ・子ども家庭支援の意義と必要性			9	【到達目標】 ・保育ニーズが増大している背景を知り、保育所が求められる役割を理解する 【授業内容】 ・預かり型支援 ・事例を通して考える(グループワーク)		
2	【到達目標】 ・子ども家庭支援の目的を知り、保育士による子ども家庭支援の内容を理解する 【授業内容】 ・子ども家庭支援の目的、内容 ・事例を通して考える(グループワーク)			10	【到達目標】 ・様々な家庭があることを理解し、それぞれに合った家庭支援の方法を知る 【授業内容】 ・ひとり親家庭への支援 ・特別な理解と支援の必要な子どもを育てる家庭支援		
3	【到達目標】 ・保育士に求められる基本的態度を知り、理解するとともに自分に必要な姿勢を考える 【授業内容】 ・保育士に求められる基本的態度 ・事例を通して考える(グループワーク)			11	【到達目標】 ・子育て家庭支援の政策動向を知る 【授業内容】 ・子育て家庭に対する支援の体制 ・事例を通して考える(グループワーク)		
4	【到達目標】 ・共感的理解について知り、保育士として必要な『共感的理解』を考える 【授業内容】 ・事例を通して考える(グループワーク)			12	【到達目標】 ・子育て家庭支援について理解するとともに、子育てしやすい社会について考える 【授業内容】 ・事例を通して考える(グループワーク)		
5	【到達目標】 ・保育士による家庭支援について考える 【授業内容】 ・家庭支援における保育士の姿勢・倫理 ・事例を通して考える(グループワーク)			13	【到達目標】 ・世界の子育てを知り、日本における子育てしやすい社会について考える 【授業内容】 ・世界の子育て ・各々調べた『世界の子育て』をもとに、日本における子育てを考える		
6	【到達目標】 ・保育所利用家庭への支援の在り方について理解する ・関連機関との連携の大切さや必要性を理解する 【授業内容】 ・主な関連機関との連携 ・保育所利用家庭への支援			14	【到達目標】 これまでの14回の授業を振り返り、理解できなかった事柄を取り上げ確認する 【授業内容】 ・事例を通して考える(グループワーク)		
7	【到達目標】 ・子ども家庭支援制度を知り、子どもが育つための重要な役割であることを理解する 【授業内容】 ・子ども家庭支援の制度 ・事例を通して考える(グループワーク)			15	【到達目標】 ・子育て家庭支援の考えをもとにした、子育てしやすい社会について様々な考え方を考える 【授業内容】 ・定期試験 ・定期試験の振り返り		
8	【到達目標】 1回目～7回目までの内容を理解し、学びを深める 【授業内容】 ・中テスト ・中テストの振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	保育内容の理解と方法 Understanding and method for Childcare contents	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	浅子 元・川村 美穂
学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
保育士養成校にて24年のピアノ・音楽指導を行う。また保育園にてリトミック指導を16年行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
長年の音楽(ピアノ)教育の経験から、ピアノ・歌唱のほか、リトミック、打楽器演奏、オペレッタを2002年から専門学校にて指導している。 本科目は、1年次に習得した基礎的なピアノの実力を基に、リズム遊び・リトミックの初歩の段階を自ら実践し、指導ができるように学ぶ。また、オペレッタの製作と発表までの取り組みを通じて、チームで目的をもった活動を経験する。保育内容の充実や保育者の役割についても総合的に学ぶ。							
【到達目標】							
1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・「こどものうた200」チャイルド社 ・「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社				オペレッタ製作で学ぶ各演目の原作を読むことや、映画を観ることを推奨します。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 オリエンテーション。前期で学習する内容と、年間到達目標を理解する。 【授業内容】 リトミック…(ティーチング)0歳児、1歳児のリトミックの活動を実演し習得する。			9	【到達目標】 オペレッタ製作④ 【授業内容】 「そんごくう」、「つるのおんがえし」の作成。クラス全体で実施する。		
2	【到達目標】 リトミック…(ティーチング)1歳児、2歳児のリトミックの活動を実演し習得する。 【授業内容】 親子リトミック(1歳児、2歳児)で子どもたちが出来ること、出来ないことの理解をする。			10	【到達目標】 オペレッタ製作⑤ 【授業内容】 「そんごくう」、「つるのおんがえし」の作成。クラス全体で実施する。		
3	【到達目標】 リトミック…(ティーチング)2歳児、3歳児のリトミックの活動を実演し習得する。 【授業内容】 幼児リトミック(2歳児、3歳児)。主張すること、こだわりや、積極的な参加の促しについて理解をする。			11	【到達目標】 オペレッタ製作⑥ 【授業内容】 「そんごくう」、「つるのおんがえし」の作成。クラス全体で実施する。		
4	【到達目標】 リトミック…(ティーチング)4歳児、5歳児のリトミックの活動を実演し習得する。 【授業内容】 幼児リトミック(4歳児、5歳児)。子供たちに伝える工夫、大切な言葉の理解をする。			12	【到達目標】 オペレッタ製作⑦ 【授業内容】 「オズのまほうつかい」、「アラジン」、「竹取物語」の作成。		
5	【到達目標】 リトミック…(ティーチング)指導案の作成。4歳児のリトミックを考える。 【授業内容】 指導案を作成し、4歳児のリトミックのロールプレイングを実施する。			13	【到達目標】 オペレッタ製作⑧ 【授業内容】 「オズのまほうつかい」、「アラジン」、「竹取物語」の作成。		
6	【到達目標】 オペレッタ製作① 【授業内容】 「しらゆきひめ」、「ピーター・パン」の作成。クラス全体で実施する。			14	【到達目標】 オペレッタ製作⑨ 【授業内容】 「オズのまほうつかい」、「アラジン」、「竹取物語」の作成。		
7	【到達目標】 オペレッタ製作② 【授業内容】 「しらゆきひめ」、「ピーター・パン」の作成。クラス全体で実施する。			15	【到達目標】 オペレッタ製作⑩ 【授業内容】 「オズのまほうつかい」、「アラジン」、「竹取物語」の作成。		
8	【到達目標】 オペレッタ製作③ 【授業内容】 「しらゆきひめ」、「ピーター・パン」の作成。クラス全体で実施する。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	子どもの食と栄養 Nutrition for children	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	六角 はち美
学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 3限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 20年以上にわたり病院・保育園・介護施設での栄養管理は勿論、献立作成や衛生管理・発注作業・栄養相談など幅広い経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 栄養学は体と食の関係性を学ぶ事が大切です。自分の体の中で起こっていることにまずは興味を持てるように、日常で行える体の変化を体験していただきます。 五大栄養素とはそれぞれどんな役割を持っていて、体に吸収される流れはどんな物なのかを体系的に学び、食べ物が体の一部になったり、エネルギーとして使われたりなどリアルに理解できるように身近な食材を使ってイメージしやすいように授業を進めて行きます。							
【到達目標】 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 日々自分の食事と体調の変化に意識を向け食と身体をつながりをリアルに感じる。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 五大栄養素について全体的に説明することが出来る。 食事バランスガイドが使える。 【授業内容】 1年時の復習・栄養学の基本のふりかえり 食事バランスガイドを使って食事の振り返りをする			9	【到達目標】 現場での給食会議で自分の考えをプラスして案が出せるようになる。 【授業内容】 食育の基本(食育基本法、食育の意義など)について学ぶ。 行事食について学ぶ。		
2	【到達目標】 妊娠期の体(ホルモン)の変化と、どのような食生活が必要か説明できる。 【授業内容】 ライフステージ栄養① 妊娠期の体(ホルモン)の変化と産後に必要な栄養の知識を学ぶ。			10	【到達目標】 班ごとに考案した食育計画を実行表にできる。 【授業内容】 班ごとに行事食を考案し計画する。		
3	【到達目標】 乳児期(特に離乳食)の体や口腔の発達と必要な栄養素を説明できる 調理実習のイメージが出来る。 【授業内容】 ライフステージ栄養②乳児期の体の発達と必要な栄養素を学ぶ 実習に向けて衛生管理について確認し、実習内容についての説明を行う。			11	【到達目標】 計画した食育案を実行できるようになる。 調理実習のイメージが出来る。 【授業内容】 食育の計画の作成を行う。(実習のイメージをする) 子供達に行事食に興味を持たせるツールを考える。		
4	【到達目標】 栄養補完した分粥を作れるようになる。 【授業内容】 ライフステージ栄養③(調理実習) 乳児期(特に離乳食)の体の発達と必要な栄養素を学ぶ②			12	【到達目標】 班ごとに考案した行事食を作る 【授業内容】 調理実習		
5	【到達目標】 栄養補完した分粥を作れるようになる。 【授業内容】 ライフステージ栄養③(調理実習) 乳児期(特に離乳食)の体の発達と必要な栄養素を学ぶ②			13	【到達目標】 班ごとに考案した行事食を作る 【授業内容】 調理実習		
6	【到達目標】 幼児期の成長に必要な栄養素の特徴を説明できる。 【授業内容】 ライフステージ栄養④幼児期の成長を知り、栄養の摂り方全般を学ぶ。 実習の振り返りをする。			14	【到達目標】 各班の振り返りを通して、現場で活かせる食育行動を身に付ける。 実習の振り返りをする。		
7	【到達目標】 学童期の成長に必要な栄養素の特徴を説明できる。 【授業内容】 ライフステージ栄養⑤ 学童期の成長を知り、栄養の摂り方全般を学ぶ。			15	【到達目標】 第1回～14回授業についてしっかりと理解が出来ているか確認を行い、それぞれ説明できる。 【授業内容】 定期試験を行う。		
8	【到達目標】 1～7回目での内容が説明できる。 アレルギーについて自信を持って話を聞けるようになる。 【授業内容】 中間試験 食事由来アレルギーについて基礎知識を学ぶ。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 日常での体調チェックを行うようにしていくと、栄養の授業がより興味をもってうけられるようになります。							

科目名 (英)	幼児体育指導法 Instruction skills for child sports	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	飯塚 洋一
学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 水曜 1限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
幼児体育指導員。保育園園長。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
幼児体育指導員として幼児期の体育指導に携わり、様々な環境下でも、安全管理、環境設定を整え、幼児の心身の発達に合わせた運動処方を実践。また、保育園園長として保育所保育指針の実践について常に保育を管理運営を実践している。この経験を活かし、領域「健康」のねらいを幼児体育を通して達成する視点を育む。授業では、基本的な知識技術を体験的に学ぶ環境をつくり、幼児体育の面白さに興味を持ち、その体験を活かした指導法を自ら体現できる方法を体感する。							
【到達目標】							
・子どもの発達特性を理解しながら保育現場やスポーツ現場で、運動指導を行うための基本的な理論や実践方法を理解することができる。 ・身近な道具や歌・手遊びに合わせた演習や配慮を必要とする子どもへの運動指導法について指導計画を立てることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・自作テキスト				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 幼児体育の概要を知り、指導者とはどうあるべきか？を言語化する。また、幼児体育の基礎と徒手運動運動の基本指導を知る。 【授業内容】 授業ガイダンス。幼児体育の意義について、指導者像を考える。幼児体育の基本知識、徒手運動の展開、補助方法を知り体感する。			9	【到達目標】 幼児期の発達に応じた水泳指導の基礎知識と基礎技術、安全管理について知る。 【授業内容】 水泳時の安全管理、補助方法など環境設定とともに救急法についても触れる。基本的な段階指導の手順を知り体感する。		
2	【到達目標】 指導者としての基本を知る。また、幼児体育の基礎と陸上運動の基本指導を知る。 【授業内容】 指導者としての基本を知る。幼児期の心身の発達の基本や特徴を再認識する。幼児体育の基本知識、陸上運動の展開、補助方法を知る。			10	【到達目標】 幼児体育の基礎と鉄棒運動の基本指導を知る。 【授業内容】 幼児体育の基本知識、技術、鉄棒運動の展開、補助方法を知り体感する。		
3	【到達目標】 保育と幼児体育について考え自分なりの意見を持つ。また、幼児体育の基礎とマット運動の基本指導を知る。 【授業内容】 保育所指針で幼児体育を見て分析する。幼児体育の基本知識、技術、マット運動の展開、補助方法を知り体感する。			11	【到達目標】 身近な物品(タオル)を使用した運動の基本と段階指導、安全管理、補助について知る。 【授業内容】 幼児体育の基本指導、タオルを利用した運動の展開、補助方法を知り体感する。		
4	【到達目標】 保育と幼児体育について考え自分なりの回答を持つ。また、幼児体育の基礎と跳び箱運動の基本指導を知る。 【授業内容】 保育所指針で幼児体育を見て分析する。幼児体育の基本知識、技術、平跳び箱運動の展開、補助方法を知り体感する。			12	【到達目標】 身近な物品(新聞)を使用した運動の基本と段階指導、安全管理、補助について知る。 【授業内容】 幼児体育の基本指導、新聞紙を利用した運動の展開、補助方法を知り体感する。		
5	【到達目標】 保育と幼児体育について考え自分なりの視点を持つ。また、幼児体育の基礎と長縄・短縄運動の基本指導を知る。 【授業内容】 保育所指針で幼児体育を見て分析する。幼児体育の基本知識、技術、長縄・短縄運動の展開、補助方法を知り体感する。			13	【到達目標】 ストーリー運動、親子体操の基本と段階指導、安全管理、補助について知る。 【授業内容】 幼児体育の基本指導、ストーリー運動、親子体操の展開、補助方法を知り体感する。		
6	【到達目標】 幼児体育の基礎と布玉・ボール運動の基本指導を知る。 【授業内容】 幼児体育の基本知識、技術、布玉・ボール運動の展開、補助方法を知り体感する。			14	【到達目標】 運動会の基本的な種目と安全管理と環境設定について知る。 【授業内容】 運動会の基本的な種目説明。種目の安全管理、補助方法について知り体感する。		
7	【到達目標】 幼児体育の基礎とボール(サッカー含)運動の基本指導を知る。 【授業内容】 幼児体育の基本知識、技術、ボール(サッカー含)運動の展開、補助方法を知り体感する。			15	【到達目標】 定期試験と授業の振り返りをして、指導者のあり方についてイメージを持ち、幼児体育の目的を再確認する。 【授業内容】 定期試験と実施後、回答解説。		
8	【到達目標】 中間試験及び鬼ごっこ、ゲーム運動の基本指導を知る。 【授業内容】 中間試験と終了後、回答解説。鬼ごっこ、ゲーム運動の展開、安全管理方法を知り体感する。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 運動のできる服装(汚れてもよい)、シューズ等を準備。							

科目名 (英)	子ども家庭福祉 Child and family welfare	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	丑久保 行紀
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 水曜 2限
学科・コース	保育士科(昼間主コース)						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 児童養護施設の職員として15年の勤務経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目では、子どもの人権擁護について理解し、子ども家庭福祉について基礎的理解を深めるとともに、多様な現状と課題を主体的に捉え考える力を養う。 子ども達を取り巻く環境・福祉サービス・多様なニーズなどを現場経験から得た知識を活かし、実践的でわかりやすい説明をこころがけ質疑を通して、知識の獲得・記憶の定着を図れるような授業を行う。							
【到達目標】 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。2. 子どもの人権擁護について理解する。3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「みらい×子どもの福祉BOOKS 社会的養護Ⅰ」みらい				【授業外における学習】 専門的用語理解のため、予習・復習の大切さを説明し、必要知識獲得を促す。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 子ども家庭福祉の理念と概念を理解するための方法と、子どもをとりまく現代的課題の学びを進めることができる。 【授業内容】 子ども家庭福祉の理論と概念とは・現代的課題とは・「児童の最善の利益」とは			9	【到達目標】 家庭の中で生じている子ども虐待・ドメスティックバイオレンスについて現状を理解し、影響・防止のための取り組み等を学ぶ。 【授業内容】 子ども虐待、その定義と概要について・子ども虐待防止の取り組みについて		
2	【到達目標】 子ども家庭福祉における歴史の変遷と、諸外国の特徴を理解できる。 【授業内容】 諸外国の特徴について・子ども家庭福祉の歴史的展開とは・支援対象の多様化について			10	【到達目標】 貧困の現状や貧困の中で子どもにどのような影響をもたらすのか、また格差を解消するための保育所の可能性について学ぶ。 【授業内容】 貧困について・子どもの貧困対策について・貧困対策としての保育		
3	【到達目標】 子どもの人権擁護のしくみの構築過程を理解し、児童の権利に関する条約について学ぶ。 【授業内容】 子どもの人権擁護の歴史について・児童の権利に関する条約・子どもの人権擁護に関する課題について			11	【到達目標】 社会的養護の概要やその方向性等を学ぶとともに、保育士としてもたずさわる社会的養護下の子ども達を取り巻く状況を学ぶ。 【授業内容】 社会的養護について・社会的養護の展開について		
4	【到達目標】 子ども家庭福祉サービスが適切に提供されるための理念や実施主体、関係機関を定める法律や制度をふまえ、実施体制全般を学ぶ。 【授業内容】 子ども家庭福祉の法制度について・実施体制と専門職について			12	【到達目標】 障害児への支援の変遷について振り返ることを含めて、今後の障害支援における普通の子どものための配慮された支援について学ぶ。 【授業内容】 障害児の福祉について・障害児支援、体制について		
5	【到達目標】 児童福祉施設の種類や目的および役割、専門職の役割や保育士の位置づけや専門職倫理について学び、理解を深める。 【授業内容】 児童福祉施設の種類、機能について・子ども家庭福祉の専門職・保育士の位置づけと役割について			13	【到達目標】 非行の現状や支援制度について学び、少年たちによりよい環境を提供し成長を促す育ち直しの支援の意味やしくみを理解する。 【授業内容】 少年非行の現状について・非行相談と施設の関係について・感化院について		
6	【到達目標】 少子高齢化の要因や子育て支援が必要とされる背景を学び、子ども・子育て支援体制の概要を理解する。 【授業内容】 少子高齢化について・子ども子育て支援制度について			14	【到達目標】 子育て関連3法が成立し、認定こども園制度の見直しとともに、幼保連携という考え方について理解を深める。 【授業内容】 地域の子育て支援対策の流れについて・子ども、子育て支援制度について・幼保連携について		
7	【到達目標】 母子保健、子どもの健全育成という視点から、妊娠～学童期までの支援体制を学び、今後の課題について理解する。 【授業内容】 母子保健について・児童健全育成について・母子保健サービスの動向について			15	【到達目標】 保育現場の内外で展開されるさまざまな連携・協働やネットワークについて学ぶ。 【授業内容】 連携、協働の必要性について・実践場面における連携、協働について・連携、協働の留意点について		
8	【到達目標】 制度をふまえて、多様な保育ニーズに対応するためのしくみや、さまざまな保育携帯について学び、障害児支援の現状を理解する。 【授業内容】 保育ニーズに対応するためのしくみについて・教育、保育施設について・障害児支援の現状について			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 日頃から子どもに関する情報を新聞やネットで収集しておくことが深まる。							

科目名 (英)	社会的養護Ⅱ InstitutionⅡ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	丑久保 行紀
学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 水曜 3限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 児童養護施設の職員として15年の勤務経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目は、社会的養護の基礎的な内容を理解し、その実際や支援の方法について学ぶ。また社会的養護に関わる専門的知識・技術も身に付けてほしい。現場経験をともに、福祉の実際をイメージして学びを深めていけるよう授業を展開する。							
【到達目標】 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護Ⅰ」みらい				【授業外における学習】 予め教科書を読んでおくことが望ましい。社会的養護に関わる新聞やネット記事を読む。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 社会的養護における子どもの権利擁護の基本を理解する。施設における権利擁護の仕組み・支援について理解できる。 【授業内容】 社会的養護の機能・役割と課題、子どもの権利擁護			9	【到達目標】 アセスメントとは何かについて理解する。個別支援計画(自立支援計画)の内容について理解し、作成することができる。 【授業内容】 アセスメントと個別支援計画の作成		
2	【到達目標】 社会的養護のもとで生活する子どもの特徴、理解の仕方と背景を理解する。社会的養護を必要とする子どもの家庭環境を理解する。 【授業内容】 社会的養護における子どもの理解			10	【到達目標】 社会的養護における記録の意義と役割、自己評価の意義・方法について理解できる。 【授業内容】 記録及び自己評価		
3	【到達目標】 社会的養護における日常生活支援の特徴について理解し、日常生活での支援のあり方について理解できる。 【授業内容】 社会的養護の内容①日常生活支援			11	【到達目標】 社会的養護における保育の専門性・保育士実践を理解する。虐待を受けた子どもへの専門性を生かした対応を理解できる。 【授業内容】 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践		
4	【到達目標】 社会的養護における心理的支援の目的と特徴、心理的支援を考える視点と実際、養育者支援について理解できる。 【授業内容】 社会的養護の内容②心理的支援			12	【到達目標】 相談援助(ソーシャルワーク)の定義・体系について理解し、実践のプロセスについて理解できる。 【授業内容】 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践		
5	【到達目標】 社会的養護の子ども自立支援のあり方について理解する。支援困難な発達課題を持つ子どもへの自立支援を理解できる。 【授業内容】 社会的養護の内容③自立支援			13	【到達目標】 社会的養護実践におけるソーシャルワークを理解し、コミュニケーションスキル、ジェノグラムとエコマップの作成方法を理解できる。 【授業内容】 社会的養護におけるソーシャルワーク(知識・技術とその応用)		
6	【到達目標】 施設養護(乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設)の支援対象と生活特性について理解し、今後の課題について理解できる。 【授業内容】 施設養護の生活特性および実際①乳児院等			14	【到達目標】 家庭を支援することはどういうことか、支援チームを作る事の意義、総合的なアセスメントについて理解できる。 【授業内容】 社会的養護における家庭支援		
7	【到達目標】 施設養護(児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児施設)の支援対象と支援内容・機能について、理解できる。 【授業内容】 施設養護の生活特性および実際②障害児施設等			15	【到達目標】 「新しい社会的養育ビジョン」を踏まえ、今後の社会的養護の課題と展望について、理解できる。期末試験に答えることができる。 【授業内容】 今後の社会的養護の課題と展望・期末試験		
8	【到達目標】 家庭養護(特にファミリーホーム・養子縁組)の制度と実際について、理解する。これまでの講義を振り返り、答えることができる。 【授業内容】 家庭養護の生活特性および実際②・中間試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 講義資料は保存して復習用に活用してほしい。							

科目名 (英)	子ども家庭支援の心理学 Psychology of Child and family care	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	出口 加奈子
学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 3限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 保育士資格と幼稚園・小学校教諭免許を有し、社会福祉協議会付設の幼児相談室(主に幼児のことばの相談)において親子の相談業務を担当							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目は、生涯発達の理解を踏まえ、家族・家庭・親子関係の理解を深め、家庭の支援について体系的に学習する。各人が実際の現場で役立つ学びとなるよう担当教員の経験を織り交ぜながら、支援をする際に子どもがどの発達段階にあるか、どのような関わりが必要な段階であるかを理解できるように学習を進めていく。子どものより良い育ちを保障するために、保育者はどのように子育てを支援していけばよいか、「支援する」とはどういうことを共に考えていきましょう。							
【到達目標】 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 参考書:「実践に生かす 保育の心理学」 原口喜充 編著 ミネルヴァ書房 発行				【授業外における学習】 日常生活の中で見かける親子や家族の様子を注視し、TV・新聞・ネット等で報道される子どもや家族に関する事柄について気になった点を書き留めておく。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 乳児期の発達の特徴について説明することができる。乳児期の発達をふまえ、養育者の関わりについて考えを述べる。 【授業内容】 乳児期の言葉の発達、アタッチメント等について学ぶ。発達キーワードをもとに、実習等でのエピソードを取りあげ考察する。			9	【到達目標】 ライフコース「家庭と仕事」に関する時事問題を調べ、考えを述べる。「親としての育ち」それを支援する保育者の役割を理解できる。 【授業内容】 「家庭・子育てと仕事」に関するキーワードをもとに調べ学習を行う。親と保育者が子育てのパートナーとなる園での子育て支援を学ぶ。		
2	【到達目標】 幼児期の認知、言語の発達について説明することができる。幼児期の発達をふまえ、養育者の関わりについて考えを述べる。 【授業内容】 幼児期の認知発達段階、心の理論について学ぶ。子どもの言葉を育む保育者の関わりについて具体的な事例を考察する。			10	【到達目標】 家庭を取り巻く「地域社会」における子育ての問題点を列記する。地域における切れ目のない子育て支援の必要性を理解できる。 【授業内容】 家庭を取り巻く「地域社会」の変化を分析し考察する。子ども・子育て支援新制度の概要について学ぶ。		
3	【到達目標】 幼児期の社会性、自我の発達について説明することができる。幼児期の発達をふまえ、養育者の関わりについて考えを述べる。 【授業内容】 保育場面における遊びの発達についてケーススタディ。幼児期の自我の発達について保護者からの相談事例を考察する。			11	【到達目標】 多様化する家庭のありよう、家族の関係について理解することができる。 【授業内容】 ひとり親家庭、ステップファミリー、里親家庭について学び、具体的な支援について調べる。		
4	【到達目標】 学童期の認知、社会性、自己の発達について説明できる。乳幼児期から学童期へ移行するうえでの諸問題について考えを述べる。 【授業内容】 学童期の「対人関係」「道徳性」について学ぶ。小学校教育との接続、保幼小の連携について具体的な取り組みを調べる。			12	【到達目標】 虐待傾向の家庭の予防的支援、障がいのある子どもと保護者への支援について理解することができる。 【授業内容】 虐待してしまう親への支援の必要性をふまえ、ペアレントプログラムを調べる。親が子どもの障がいを受容する過程に寄り添う支援について学ぶ。		
5	【到達目標】 青年期の発達の特徴について説明することができる。青年期の発達課題について理解することができる。 【授業内容】 青年期の認知、自己の発達について学ぶ。青年期の対人関係の変化、臨床的課題の近年の変化を取りあげる。			13	【到達目標】 子どもの生活・生育環境とその影響について理解することができる。 【授業内容】 乳幼児期の子どもの育ちの基本について学ぶ。「様々な世代が集う地域の居場所づくり」の意義について考察する。		
6	【到達目標】 生涯発達の視点から成人期・中年期・高齢期の発達について説明できる。成人期・中年期・高齢期の発達課題について理解する。 【授業内容】 成人期・中年期・高齢期における発達理論について学ぶ。高齢者との関わりー世代間交流の取り組みについて調べる。			14	【到達目標】 発達が気になる子どもをどのようにとらえるか、理解することができる。 【授業内容】 子どものこころの健康に関わる問題、専門機関との連携について学ぶ。		
7	【到達目標】 家族の定義・機能の変化について説明することができる。なぜ現代社会で家庭支援が求められるのか、考えを述べる。 【授業内容】 家族の定義、多様化する家族形態、家族の教育機能・保護機能、これらの変化をふまえ、家族支援の必要性を考察する。			15	【到達目標】 これまで習得してきた知識や考察ポイントを確認することができる。 【授業内容】 筆記試験による定期試験。これまでの授業を振り返り、試験解説		
8	【到達目標】 乳幼児期の「家族」について、子ども・親、双方の視点から考えを述べる。これまでの学習内容を振り返り、理解できなかった事柄を確認する。 【授業内容】 これまで学んだことをふまえ、家族関係・親子関係をとらえ直す。(中間試験)			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	選択ゼミ【子育て】 Seminar for professional training	必修 選択	選択必修	年次	2年	担当教員	河野 亮子・宮本薫
		授業 形態	演習	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	前期 金曜 1・2限
学科・コース	保育士科(昼間主コース)						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 幼稚園、保育所での30年余りの教育、保育の現場経験がある。また、その経験を活かし、専門学校講師を20年余り務める。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目は、施設種別・職種領域による選択制ゼミ形式教育により、現場で役立つ特長的な科目の履修により、学生が主体的に現場力を養う。 幼稚園教諭、保育士資格を有する教員が、乳幼児保育、教育の現場経験を活かし、学生とともに子育て支援ひろばの運営を通じて、様々な子ども達や保護者と関わる方法や、専門知識、技術・対人援助力を養う為の授業を行う。							
【到達目標】 ・施設種別、職種領域についての基礎的な理解を深め、学生自らが課題をもち主体的に学ぶことができる。 ・これまで学んだ理論や知識、実践技術を生かし、現場における保育者としての立ち居振る舞いを習得することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 必要な資料はその都度教員が配付する 保育運営を実践するにあたり特に見出しなみに留意する				【授業外における学習】 学生は実践日の2週間前までに活動内容を考え、担当教員の指導を受ける。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 地域子育て支援活動について理解し、エンゼルキッズ開園の準備を整えることができる。 【授業内容】 エンゼルキッズの理解・グループ編成・スケジュール確認・実施計画			9	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述		
2	【到達目標】 おかえりエンゼルに参加し、先輩の活動を見てエンゼルキッズに理解を深める。 【授業内容】 おかえりエンゼルの参加・卒業生の観察・運営の流れヲ体験する。			10	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述		
3	【到達目標】 次回からのエンゼルキッズの運営に向けて環境整備をし、リハーサルを行う。 【授業内容】 環境整備をし模擬保育を通して、エンゼルキッズの運営をイメージする			11	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述		
4	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述			12	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述		
5	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述			13	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述		
6	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述			14	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述		
7	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述			15	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述		
8	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述			【評価について】 実技試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 ゼミ履修生間で積極的なコミュニケーションを図り、情報共有や円滑な保育運営のための事前準備を意識して欲しい。							

科目名 (英)	選択ゼミ【障がい】 Seminar for professional training	必修 選択	選択必修	年次	2年	担当教員	古川みどり (佐藤愛香・祖田浩介)
		授業 形態	演習	総単位 時間	60	開講区分	前期 金曜 1・2限
学科・コース	保育士科(昼間主コース)					曜日・時間	
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
保育士、児童発達支援管理者、施設長、現保育所等訪問支援員として、様々な子どもの保育・支援及び児童発達支援センターの施設運営・支援に携わる経験をもつ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科科目は選択制ゼミ形式での特色を活かし、学生が主体的に学習できる様、ディスカッション等の話す場を設け、現場に出て活きる学びや現場で役立つ学びや、一人ひとりの個性・特性等を理解し、子ども、その人の良さ、持ち味に気づき、支援をしていく視点を養い、ポジティブに捉える視点・姿勢を学んでいく。自分の意見を発信したり、相手の意見を聞く経験をしながら、チームで行う支援や連携・協働に繋げる学びをしていく。現場職員の講義を交えながら、障がい児保育や支援の在り方について理解を深める。							
【到達目標】							
・自己認識理解から他者を理解していくこと、多視点・多角的に連携協働しながら支援をしていく重要性を理解し、チーム支援保育を知り、理解していく。 ・障がい特性等を理解し、その援助や関わり方、配慮等について多様な意見や視点を交わしながら自らの支援保育をイメージし、支援保育をつくる事ができる。 ・様々な福祉の形態、支援サービスを知り、学びを深める。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・児童発達支援ガイドライン ・保育所保育指針 ・適時配布				【授業外における学習】 施設見学(施設スタッフとのディスカッション等)・特別講師登壇			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 年間のゼミ・授業をイメージする 自己理解・自己認識～自分のよさ・持ち味について知る 【授業内容】 (古川＋佐藤)自分の良さ・持ち味を知る グループディスカッションを通し、自己理解や他者理解、多視点に触れる			9	【到達目標】 実習後の施設の特色・特徴、課題点をまとめる 園、施設での子どもの発達を子どもの様子から見出し、まとめる 【授業内容】 (古川＋佐藤)実習後の振り返りとまとめ 職員間等連携と協働について		
2	【到達目標】 子どもの生活・遊びを軸にした支援について学ぶ。児童発達支援においての理念方針を理解する① 【授業内容】 児童発達支援ガイドラインと保育所保育指針について学ぶ			10	【到達目標】 併設園施設見学を通し、環境構成や子どもとの関わり等学びを深める 【授業内容】 (古川＋佐藤・ふじみ野スタッフ) 施設見学 ふじみ野どんこ保育園・つむぎふじみ野ルーム①		
3	【到達目標】 子どもの生活・遊びを軸にした支援について学ぶ。児童発達支援においての理念方針を理解する② 【授業内容】 放課後等デイサービスガイドラインと小学校教育要領について学ぶ			11	【到達目標】 チーム支援、多角的な視点について理解をする 【授業内容】 (古川＋佐藤) グループディスカッションを通し、ケース検討を行う		
4	【到達目標】 さまざまな子・人の環境(人的・物的)について①(戸外) 事例を通し、環境構成・関わりをグループごとにまとめる、共有する 【授業内容】 グループディスカッション・発表・他の視点に触れる			12	【到達目標】 連携～職員・保護者・地域・専門機関について 協働の意味、意図について ① 【授業内容】 地域にある専門機関を調べる 障がいの支援、関係機関連携について学びを深める		
5	【到達目標】 さまざまな子・人の環境(人的・物的)について②(室内) 事例を通し、環境構成・関わりをグループごとにまとめる、共有する。 【授業内容】 グループディスカッション・発表・他の視点に触れる			13	【到達目標】 保護者の障がい受容についてを知り、保護者支援・家庭支援の在り方、関わりを理解する、保育所等訪問支援について学ぶ 【授業内容】 障がい受容について 保護者支援・家庭支援、相談支援について		
6	【到達目標】 連携～職員・保護者・地域・専門機関について 協働の意味、意図について ① 【授業内容】 (古川＋佐藤)地域にある専門機関を調べる 障がいの支援、関係機関連携について学びを深める			14	【到達目標】 障がい児・者の環境・関わり等、テーマに沿って考えをまとめる 【授業内容】 グループ発表準備 グループディスカッション		
7	【到達目標】 実習開始に際しての施設に対しての理解を深める 職員連携や多職種連携を学ぶ 【授業内容】 (古川＋佐藤)多様な職種や役割のある中でチームとなり、子どもを真ん中にした支援について			15	【到達目標】 定期試験を通し、これまで学んだことを理解し、記述することができる 【授業内容】 定期試験～発表		
8	【到達目標】 前半授業でのまとめ。学びの振り返りを行う 多視点に触れる 【授業内容】 中間試験～発表			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	保育内容演習 Seminar for Contents of Early Childhood Care and Education	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	平岡 麻依子
学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 月曜 1限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
公立保育所に長年勤務し、0歳児から5歳児までの保育に携わる。日々の保育の中で、一人ひとりの成長を促す保育活動を行うとともに、行事の企画運営も行ってきた。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科目では、子どもへの関わり方や保育活動の計画・実践について学びます。実技やグループワークを通じて、保育の楽しさを体感しながら、実践力を身につけます。自ら考え、解決策を導いていく経験、相手の意見に耳を傾けともに作り上げていく経験を重ね、保育現場で大切なチームワークを養ってほしい。							
【到達目標】							
1. 総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。2. 保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域を通して捉え、保育の内容について具体的に理解する。3. 子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。4. 環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程の実践について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン／幼稚園教育要領 ／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド社)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 クラスだよりの役割を理解し、具体的な作成方法を習得する。 【授業内容】 実際のクラスだよりを見る。クラスだよりの作成。			9	【到達目標】 「数」への興味を促す具体的な遊びと、配慮事項を理解する。 【授業内容】 どのように数の概念を身につけていくのかを考え、遊びの中で身につける方法を考える。		
2	【到達目標】 和紙の特性(感触・性質)を理解し、教材研究を行う。 【授業内容】 和紙の特性を理解し、和紙を使用した制作を実際に行う。			10	【到達目標】 遊びのねらいに応じた、おもちゃの設計と計画立案を学ぶ。 【授業内容】 作って遊べるおもちゃの立案。ねらいのある保育計画づくり。制作活動。		
3	【到達目標】 素材を活かした具体的な環境構成と、教材活用の工夫を学ぶ。 【授業内容】 和紙を利用した作品のアイデアを出し、実際に作ってみる。			11	【到達目標】 教材の安全性や工夫を考慮し、具体的な指導案を完成させる。 【授業内容】 作って遊べるおもちゃの制作活動。指導案作成。		
4	【到達目標】 物語の世界観を身体活動に繋げる、総合的な展開力を学ぶ。 【授業内容】 絵本を題材にした運動会の競技を考える。			12	【到達目標】 教材の安全性や工夫を考慮し、具体的な指導案を完成させる。 【授業内容】 作って遊べるおもちゃの制作活動。指導案作成。		
5	【到達目標】 競技のねらいと配慮事項を、具体的かつ明確に理解する。 【授業内容】 考えた競技について、ねらいと内容の説明をする。			13	【到達目標】 教材の安全性や工夫を考慮し、具体的な指導案を完成させる。 【授業内容】 作って遊べるおもちゃの制作活動。指導案作成。		
6	【到達目標】 秋の自然環境を活かした、ねらいのある保育計画を立案する。 【授業内容】 屋外で体を動かす遊びと秋の自然集めを体験し、ねらいのある保育計画づくり。			14	【到達目標】 子どもの体験を捉え、遊びを広げるための展開技術を習得する。 【授業内容】 定期試験① 作って遊べるおもちゃ発表		
7	【到達目標】 季節の行事と自然物を組み合わせた指導案作成を習得する。 【授業内容】 自然物を使ったクリスマス制作と、指導案の作成			15	【到達目標】 1年を振り返り、自分の成長を実感することができる。 【授業内容】 定期試験② 筆記試験		
8	【到達目標】 環境構成、教材活用、過程の実践について総合的に理解する。 【授業内容】 中間試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	保育実践演習 Professional skill	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	平岡 麻依子
学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 月曜 2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
公立保育所に長年勤務し、0歳児から5歳児までの保育に携わる。日々の保育の中で、一人ひとりの成長を促す保育活動を行うとともに、行事の企画運営も行ってきた。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科目では、子どもへの関わり方や保育活動の計画・実践について学びます。実技やグループワークを通じて、保育の楽しさを体感しながら、実践力を身につけます。自ら考え、解決策を導いていく経験、相手の意見に耳を傾けともに作り上げていく経験を重ね、保育現場で大切なチームワークを養ってほしい。							
【到達目標】							
1. 保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 自己の課題を明確化し、保育に必要な基礎的な資質、能力を定着させる。							
【使用教科書・教材・参考書】 令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン／幼稚園教育要領 ／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド社)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 保育の専門性を保護者へ適切に伝えるための伝達力を養う。 【授業内容】 実際のクラスだよりを見る。クラスだよりの作成。			9	【到達目標】 子どもの発達課題を分析し、支援方法を考察する。 【授業内容】 どのように数の概念を身につけていくのかを考え、遊びの中で身につける方法を考える。		
2	【到達目標】 素材の特性を分析し、保育士としての表現の幅を広げる。 【授業内容】 和紙の特性を理解し、和紙を使用した制作を実際に行う。			10	【到達目標】 グループでの協働を通じ、保育士に必要な総合的判断力を養う。 【授業内容】 作って遊べるおもちゃの立案。ねらいのある保育計画づくり。制作活動。		
3	【到達目標】 自由な発想から、自己の造形表現における課題を明確にする。 【授業内容】 和紙を利用した作品のアイデアを出し、実際に作ってみる。			11	【到達目標】 自身の制作・立案過程を省察し、基礎的な資質を定着させる。 【授業内容】 作って遊べるおもちゃの制作活動。指導案作成。		
4	【到達目標】 現代的な保育ニーズに合わせ、多様な視点で競技を考察する。 【授業内容】 絵本を題材にした運動会の競技を考える。			12	【到達目標】 自身の制作・立案過程を省察し、基礎的な資質を定着させる。 【授業内容】 作って遊べるおもちゃの制作活動。指導案作成。		
5	【到達目標】 自らの考えを論理的に説明し、専門職としての判断力を磨く。 【授業内容】 考えた競技について、ねらいと内容の説明をする。			13	【到達目標】 自身の制作・立案過程を省察し、基礎的な資質を定着させる。 【授業内容】 作って遊べるおもちゃの制作活動。指導案作成。		
6	【到達目標】 自然体験を通じた学びを分析し、保育士の役割を考察する。 【授業内容】 屋外で体を動かす遊びと秋の自然集めを体験し、ねらいのある保育計画づくり。			14	【到達目標】 実演を通じ、専門職としての対人援助技術の課題を明確にする。 【授業内容】 定期試験① 作って遊べるおもちゃ発表		
7	【到達目標】 自然物活用の意義を理解し、自己の指導計画を具体化する。 【授業内容】 自然物を使ったクリスマス制作と、指導案の作成			15	【到達目標】 1年間の学びを総括し、自己の専門知識の習得状況を確認する。 【授業内容】 定期試験② 筆記試験		
8	【到達目標】 自らの実践技術の到達度を把握する。 【授業内容】 中間試験 クリスマス制作物の発表、指導案の提出			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	子育て支援 Learning for Child care support system	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	八木 ゆかり
学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 1限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
障がい児者施設、保育所保育士、保育園園長、保育アドバイザー、保護者支援等「保育・教育・福祉」分野での経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
「保育・教育・福祉」分野での経験を活かし、現場力(柔軟な対応、実践的な支援・チーム力等)の知識・技術をグループワーク・実践を中心に習得できる授業を行う。 現場での業務経験を踏まえ、より実践的な子育て支援について伝えていく。本科目では、子育て支援についての理解を深め、具体的な事例をもとに支援の方法を考察し、支援方法と理解の視点を学び、現場に活かせる知識とスキルを習得する。グループワークを通し理解を深める							
【到達目標】							
1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ・子育て支援について学ぶ目的を知る ・子育て支援の制度的基盤を知る 【授業内容】 ・子育て支援とは ・事例を通して考察する(グループワーク)			9	【到達目標】 ・トラブルの際の対応の基本を理解する 【授業内容】 ・場面に応じた保護者とのコミュニケーション		
2	【到達目標】 ・子育て支援の意義を知り、理解する 【授業内容】 ・子育て支援の意義を事例を通し、考察する(グループワーク)			10	【到達目標】 ・様々な種類の文書があること、書き方の違いがあることを理解する ・保護者向けの文書の書き方の基本を知る 【授業内容】 ・文書を活用した子育て支援		
3	【到達目標】 ・子育て支援の基本的価値とは何かを知る ・子育て支援の基本的価値と倫理について理解する 【授業内容】 ・事例を通して考察する(グループワーク)			11	【到達目標】 ・通所施設で保育者が行う子育て支援の基本について知る 【授業内容】 ・通所施設における子育て支援		
4	【到達目標】 ・子育て支援の基本的姿勢について理解する 【授業内容】 ・保護者支援を行う上での心構えや態度について			12	【到達目標】 ・環境を通した子育て支援の方法の基本を理解する 【授業内容】 ・園内における環境		
5	【到達目標】 ・子育て支援の基本的技術を理解する 【授業内容】 ・子育て支援のプロセス			13	【到達目標】 ・特別な支援を必要とする保護者への支援を知る 【授業内容】 ・保護者に何らかの障がいがある家庭への支援		
6	【到達目標】 ・園内・園外との必要な連携と社会資源を知る 【授業内容】 ・複雑な家庭について ・様々な連携について			14	【到達目標】 これまでの14回の授業を振り返り、理解できなかった事柄を取り上げ確認する 【授業内容】 これまでの授業を振り返り、理解できなかった事柄を取り上げ、チームで考察する		
7	【到達目標】 ・問題の早期発見・早期対応のためにできることや必要なことを知る ・記録の取り方・活用方法を知る 【授業内容】 ・子育て支援における必要な記録・評価について			15	【到達目標】 ・ここまで習得してきた知識や考察ポイントを確認する 【授業内容】 ・定期試験 ・定期試験の振り返り		
8	【到達目標】 1回目～7回目までの内容を理解について振り返り、理解できなかった事柄を確認する 【授業内容】 ・中テスト ・中テストの振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	保育内容の理解と方法 Understanding and method for Childcare contents	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	浅子 元・川村 美穂
学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
保育士養成校にて24年のピアノ・音楽指導を行う。また保育園にてリトミック指導を16年行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
長年の音楽(ピアノ)教育の経験から、ピアノ・歌唱のほか、リトミック、打楽器演奏、オペレッタを2002年から専門学校にて指導している。 本科目は、1年次に習得した基礎的なピアノの実力を基に、リズム遊び・リトミックの初歩の段階を自ら実践し、指導ができるように学ぶ。また、オペレッタの製作と発表までの取り組みを通じて、チームで目的をもった活動を経験する。保育内容の充実や保育者の役割についても総合的に学ぶ。							
【到達目標】							
1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「こどものうた200」チャイルド社 ・「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社				【授業外における学習】 オペレッタ製作で学ぶ各演目の原作を読むことや、映画を観ることを推奨します。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 オリエンテーション。後期で学習する内容と年間到達目標を理解する。保育の現場で取り上げられるオペレッタのマネジメントを学ぶ。 【授業内容】 「アラジン」「オズの魔法使い」「竹取物語」内容の理解。			9	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「アラジン」「オズの魔法使い」「竹取物語」…練習…うた、ダンス、フォーメーション、演出。製作班の確認。		
2	【到達目標】 オペレッタ活動 保育所・幼稚園におけるオペレッタ活動について。「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「アラジン」「オズの魔法使い」「竹取物語」…練習(うた、せりふ、動き)			10	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「アラジン」「オズの魔法使い」「竹取物語」…練習…うた、ダンス、フォーメーション、演出。オペレッタ発表会のチラシ作成。		
3	【到達目標】 オペレッタ活動 保育所・幼稚園におけるオペレッタ活動について。「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「アラジン」「オズの魔法使い」「竹取物語」…練習(うた、せりふ、動き)			11	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「アラジン」「オズの魔法使い」「竹取物語」…練習…うた、ダンス、フォーメーション、演出。製作班の修正。		
4	【到達目標】 オペレッタ活動 保育所・幼稚園におけるオペレッタ活動について。「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「アラジン」「オズの魔法使い」「竹取物語」…練習(うた、せりふ、動き)			12	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「アラジン」「オズの魔法使い」「竹取物語」…うた、ダンス、フォーメーション、演出。オペレッタ発表会当日の流れ確認。		
5	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。製作物品(背景画、衣装、小物など)の重要性の理解。 【授業内容】 「アラジン」「オズの魔法使い」「竹取物語」…練習うた、ダンス、フォーメーション、演出。			13	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「アラジン」「オズの魔法使い」「竹取物語」…うた、ダンス、フォーメーション、演出。製作班の仕上げ。		
6	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「アラジン」「オズの魔法使い」「竹取物語」…練習(うた、せりふ、動き)演出。製作班の会議。			14	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。リハーサルを通して本番の流れをイメージする。 【授業内容】 「アラジン」「オズの魔法使い」「竹取物語」…うた、ダンス、フォーメーション、演出。リハーサル。		
7	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「アラジン」「オズの魔法使い」「竹取物語」…練習…うた、ダンス、フォーメーション、演出。			15	【到達目標】 保育士科・演習系科目の集大成として、発表の場に臨み評価を得る。各人の役割を全うする。 【授業内容】 「アラジン」「オズの魔法使い」「竹取物語」…本番の披露をする(公開の発表会)。2027年2月2日(火)にオペレッタ発表会を開催。		
8	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 オペレッタ製作活動で各学生がグループの中でどのように貢献しているか。振り返りと今後の対策を考える。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	カウンセリング演習 Counseling Seminar	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	川口 麗
	学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
カウンセラー資格を持つ美術教員として、園児、児童との何気ない会話から心のケア、サポートを行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科目はカウンセリング理論から派生し、様々な境遇において、より実践的かつ具体的な学びを深めるものである。また、相談される側にとどまらず、自身を内観することでセルフマネジメントのスキルを養う。カウンセリングという型式だけではなく、日常的に他者とのコミュニケーションを円滑に行うためには、どのようなアプローチが出来るのか、気づきを得る時間に行うことができる。							
【到達目標】							
・対人援助職を目指す者として、カウンセリングの技術を身につける。 ・子どもや保護者を援助するうえで、適切な判断や対応につなげるプロセスを理解する。 ・自身の思考の癖や、認知を知り、客観的に柔軟に捉えることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・教員が資料を提示、配布する。				家、学校、職場において積極的にコミュニケーションをはかる様、心がけましよう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 授業の進行方法、評価基準を理解する。カウンセリングの理論を知る。 【授業内容】 講義、小テスト。			9	【到達目標】 アートセラピーについて理解する。 【授業内容】 講義：アートセラピーとは。その役割とは。SOSを含む表現について。中間試験解説。		
2	【到達目標】 カウンセリングの技法、心得を知る。 【授業内容】 講義、演習「受容・共感・うなずき・くり返し」			10	【到達目標】 職場で、同僚と良好な関係を築くことを考察する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」		
3	【到達目標】 発達症について理解する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」			11	【到達目標】 ①保護者との関わりについて考察する。日常的対応、面談について考察する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」連絡帳の活用練習。		
4	【到達目標】 子どもの喧嘩について理解する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」			12	【到達目標】 ②保護者との関わりについて考察する。怒り、クレーム対応について考察する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」		
5	【到達目標】 不登校(園)について理解する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」			13	【到達目標】 精神科、児童精神科、心療内科、投薬について理解する。 【授業内容】 講義：プラシボ、ノセボ効果。医療機関との連携。投薬の慎重性。		
6	【到達目標】 子どものいじめ・意地悪について理解する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」			14	【到達目標】 自分の整え方、ストレスとの向き合い方について考察する。 【授業内容】 講義：アドラー心理学、腹式呼吸、マインドフルネス。		
7	【到達目標】 トラウマについて理解する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」			15	【到達目標】 これまでの学びを整理して、試験に取り組むことができる。 【授業内容】 定期試験。ノート提出。		
8	【到達目標】 臨床美術について理解する。 【授業内容】 講義、演習「アートセラピー」			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							
各自、B5ノートを1冊準備してください。							

科目名 (英)	こども体操教室 Child Cram School	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	飯塚 洋一
学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	実技	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 1・2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
幼児体育指導員。保育園園長。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
幼児体育指導員として幼児期の体育指導に携わり、様々な環境下でも、安全管理、環境設定を整え、幼児の心身の発達に合わせた運動処方を実践。また、保育園園長として保育所保育指針の実践について常に保育を管理運営を実践している。この経験を活かし領域「健康」のねらいを幼児体育を通して達成する視点を育む。授業では、基本的な知識技術を体験的に学ぶ環境をつくり、幼児体育の面白さに興味を持ち、その体験を活かした指導法を自ら体現できる方法を体感する。							
【到達目標】							
・子どもの健康指導及び支援のできる保育者を目指し、その指導法を身につけることができる ・実践的な保育活動の準備やプログラム立案を含め習得することができる ・立案した運動指導計画を基に、子ども体操教室の実践・振りかえりを行うことができる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・自作テキスト				・指導案準備の為ネットによる検索や参考図書閲覧。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 水泳の模擬指導案作成と模擬指導を実践し、評価、検証することで、安全管理、補助の再認識と幼児体育指導員としての総合力について知る。 【授業内容】 授業ガイダンス。グループによる水泳の模擬指導案作成。水泳の模擬指導実施と評価、検証を実施。			9	【到達目標】 ボール運動の模擬指導案作成・指導を実践することで、安全管理、補助の再認識と幼児体育指導員としての総合力について知る。 【授業内容】 グループによるボール運動の模擬指導案作成。ボール運動の模擬指導実施と評価、検証を実施。		
2	【到達目標】 徒手運動の模擬指導案作成・指導を実践することで、安全管理、補助の再認識と幼児体育指導員としての総合力について知る。 【授業内容】 グループによる徒手運動の模擬指導案作成。徒手・陸上運動の模擬指導実施と評価、検証を実施。			10	【到達目標】 鉄棒運動の模擬指導案作成・指導を実践することで、安全管理、補助の再認識と幼児体育指導員としての総合力について知る。 【授業内容】 グループによる鉄棒運動の模擬指導案作成。鉄棒運動の模擬指導実施と評価、検証を実施。		
3	【到達目標】 陸上運動の模擬指導案作成・指導を実践することで、安全管理、補助の再認識と幼児体育指導員としての総合力について知る。 【授業内容】 グループによる運動の模擬指導案作成。陸上運動の模擬指導実施と評価、検証を実施。			11	【到達目標】 身近な物を使った運動の模擬指導案作成・指導を実践することで、安全管理、補助の再認識と幼児体育指導員としての総合力について知る。 【授業内容】 グループによる身近な物を使った運動の模擬指導案作成。身近な物を使った運動の模擬指導実施と評価、検証を実施。		
4	【到達目標】 マット運動の模擬指導案作成・指導を実践することで、安全管理、補助の再認識と幼児体育指導員としての総合力について知る。 【授業内容】 グループによるマット運動の模擬指導案作成。跳び箱運動の模擬指導実施と評価、検証を実施。			12	【到達目標】 ストーリー運動・親子体操の基本を振り返り、模擬指導案作成・指導、安全管理、補助を再確認する。 【授業内容】 ストーリー運動、親子体操の展開、補助方法を演習をとおして体感し自らの模擬指導を見直す機会とする。		
5	【到達目標】 跳び箱運動の模擬指導案作成・指導を実践することで、安全管理、補助の再認識と幼児体育指導員としての総合力について知る。 【授業内容】 グループによる跳び箱運動の模擬指導案作成。平均台運動の模擬指導実施と評価、検証を実施。			13	【到達目標】 ストーリー運動の模擬指導案作成・指導を実践することで、安全管理、補助の再認識と幼児体育指導員としての総合力について知る。 【授業内容】 ストーリー運動の模擬指導案作成。ストーリー運動の模擬指導実施と評価、検証を実施。		
6	【到達目標】 長縄運動の模擬指導案作成・指導を実践することで、安全管理、補助の再認識と幼児体育指導員としての総合力について知る。 【授業内容】 グループによる長縄運動の模擬指導案作成。長縄運動の模擬指導実施と評価、検証を実施。			14	【到達目標】 親子体操の模擬指導案作成・指導を実践することで、安全管理、補助の再認識と幼児体育指導員としての総合力について知る。 【授業内容】 親子体操の模擬指導案作成。親子体操の模擬指導実施と評価、検証を実施。		
7	【到達目標】 短縄運動の模擬指導案作成・指導を実践することで、安全管理、補助の再認識と幼児体育指導員としての総合力について知る。 【授業内容】 グループによる短縄運動の模擬指導案作成。短縄運動の模擬指導実施と評価、検証を実施。			15	【到達目標】 定期試験として模擬指導を立案して実施する。 【授業内容】 授業で実践した運動指導を基に各グループによる模擬指導案の作成・実践後、グループ・個人評価を実施し定期試験とする。		
8	【到達目標】 中間試験として模擬指導を立案して実施する。 【授業内容】 前半の授業(1～7回)で実践した運動指導を基に各グループによる模擬指導案の作成・実践後、グループ・個人評価を実施し中間試験とする。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 運動のできる服装(汚れてもよい)、シューズ等を準備。							

科目名 (英)	子どもの理解と援助 Understanding and care for child	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	出口 加奈子
学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 3限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 保育士資格と幼稚園・小学校教諭免許を有し、社会福祉協議会付設の幼児相談室(主に幼児のことばの相談)において親子の相談業務を担当							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目は、保育実践にかかわる心理学の知識や子どもの理解と援助法について、体系的に学習する。担当教員の経験と重ね合わせて学生自身もこれまでの実習等の体験を振り返るとともに、これから出会う子どもとの関わりをイメージしながら演習課題に取り組んでいく。子どもの発達の様子をとらえる「観察力」、その時々にあった対応や工夫を考える「臨機応変な思考力」の源になるよう学んでいく。							
【到達目標】 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 参考書:「実践に生かす 保育の心理学」 原口喜充 編著 ミネルヴァ書房 発行				【授業外における学習】 授業で取りあげる保育事例と照らし合わせて、保育実習・週一登園等の自らの体験を振り返るとよいです。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 保育における子ども理解の意義を理解することができる。子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開について説明することができる。 【授業内容】 「保育所保育指針で求められている子ども理解とは」「子ども理解の3つの段階」について学ぶ。			9	【到達目標】 乳幼児にとっての環境の変化や移行について理解を深めることができる。 【授業内容】 保育場面で想定される環境の変化や移行場面をあげて、子どもの心の動きやその子どもへの援助について具体的に考察する。		
2	【到達目標】 子どもに対する共感的理解と関わりについて考えを深めることができる。 【授業内容】 共感的理解について、保育場面を取りあげ考察し、グループで互いの考えを共有する。			10	【到達目標】 子ども理解のための観察・記録と省察・評価について理解することができる。 【授業内容】 観察や発達検査、保育のプロセスを評価する方法など様々な評価方法について学ぶ。		
3	【到達目標】 子どもの生活や遊びについて理解を深めることができる。 【授業内容】 乳幼児の生活と基本的生活習慣の獲得や乳幼児期の子どもの遊びを支える事柄について、保育場面を取りあげ考察する。			11	【到達目標】 子ども理解のための職員間の「対話」「協働」の重要性について理解することができる。 【授業内容】 保育者間の「対話」「協働」とはどのようなことか、対話から地域との協働へつなげる意義について学ぶ。模擬保育カンファレンスを行う。		
4	【到達目標】 人的環境としての保育者が子どもの発達にどのような影響を与えるか、考えを述べることができる。 【授業内容】 「子どもの発達と保育者の役割」「保育者のかかわりで子どもが変わっていくこと」について、保育事例を考察する。			12	【到達目標】 子ども理解のための保護者との情報共有について理解することができる。 【授業内容】 保育者と保護者の間に「子どもの見方やとらえ方」にずれがあることをふまえ、保護者との情報共有の意義や具体的な方法について考察する。		
5	【到達目標】 子ども相互のかかわりについて、仲間とかかわるきっかけや、かかわりを継続するための保育者の役割について考えを述べることができる。 【授業内容】 発達年齢による子ども同士のかかわり方の違いや、遊びを通したかかわりについて、保育実習等の体験をもとに話し合う。			13	【到達目標】 発達の課題に応じた援助とかかわりについて理解することができる。 【授業内容】 「個人差」「発達過程」というキーワードを通して、発達の課題に応じた援助と関わりについて考察する。		
6	【到達目標】 集団における経験と育ちについて考えを深めることができる。 【授業内容】 遊び集団の成立や発展にかかわる保育者の援助について、具体的な遊びを取りあげ考察する。			14	【到達目標】 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について理解を深める。発達の連続性と就学への支援について理解することができる。 【授業内容】 「特別な配慮を要する子どもへの配慮と援助、支援体制」「保幼小接続期における子どもの発達と学びの連続性」について学ぶ。		
7	【到達目標】 「仲間とのいざこざ」「自我の発達にかかわる葛藤」それぞれの発達の変化や特徴をふまえ、保育者の援助について考えを述べることができる。 【授業内容】 「いざこざ場面」「自我の発達による葛藤場面」について事例を通して考察する。			15	【到達目標】 これまで習得してきた知識や考察ポイントを確認することができる。 【授業内容】 筆記試験による定期試験。これまでの授業を振り返り、試験解説		
8	【到達目標】 保育における環境構成の基盤となる知識と考え方を知ることができる。 【授業内容】 環境構成の原則や環境が人に与える影響について学ぶ。自分と環境とのつながりを意識的にとらえ考察する—中間試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	選択ゼミ【子育て】 Seminar for professional training	必修 選択	選択必修	年次	2年	担当教員	河野 亮子・宮本 薫
学科・コース	保育士科(昼間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 1・2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 幼稚園、保育所での30年余りの教育、保育の現場経験がある。また、その経験を活かし、専門学校講師を20年余り務める。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目は、施設種別・職種領域による選択制ゼミ形式教育により、現場で役立つ特長的な科目の履修により、学生が主体的に現場力を養う。 幼稚園教諭、保育士資格を有する教員が、乳幼児保育、教育の現場経験を活かし、学生とともに子育て支援ひろばの運営を通じて、様々な子ども達や保護者と関わる方法や、専門知識、技術・対人援助力を養う為の授業を行う。							
【到達目標】 ・施設種別、職種領域についての基礎的な理解を深め、学生自らが課題をもち主体的に学ぶことができる。 ・これまで学んだ理論や知識、実践技術を生かし、現場における保育者としての立ち居振る舞いを習得することができる							
【使用教科書・教材・参考書】 必要な資料はその都度教員が配付する 保育運営を実践するにあたり特に見出しなみに留意する				【授業外における学習】 学生は実践日の2週間前までに活動計画の下書きを提出し、担当教員の指導を受ける。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 地域子育て支援活動について理解し、エンゼルキッズ開園の準備を整えることができる。 【授業内容】 エンゼルキッズの理解・グループ編成・スケジュール確認・実施計画			9	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述		
2	【到達目標】 地域子育て支援活動について理解し、エンゼルキッズ開園の準備を整えることができる。 【授業内容】 実施計画(グループワーク)			10	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述		
3	【到達目標】 地域子育て支援活動について理解し、エンゼルキッズ開園の準備を整えることができる。 【授業内容】 環境整備をし模擬保育を通して、エンゼルキッズの運営をイメージする			11	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述		
4	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述			12	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述		
5	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述			13	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述		
6	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述			14	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述		
7	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述			15	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述		
8	【到達目標】 エンゼルキッズを運営し、保育計画の実践、保育を通しての子ども理解と事例の考察、保護者対応等を学ぶことができる。 【授業内容】 運営(主活動・ピアノ・児童文化財・子どもの観察・保護者対応)・環境構成・振り返りの記述			【評価について】 実技試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 ゼミ履修生間で積極的なコミュニケーションを図り、情報共有や円滑な保育運営のための事前準備を意識して欲しい。							

科目名 (英)	選択ゼミ【障がい】 Seminar for professional training	必修 選択	選択必修	年次	2年	担当教員	古川みどり (佐藤愛香・祖田浩介)
		授業 形態	演習	総単位 時間	60	開講区分	後期 金曜 1・2限
学科・コース	保育士科(昼間主コース)					曜日・時間	
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
保育士、児童発達支援管理者、施設長、現保育所等訪問支援員として、様々な子どもの保育・支援及び児童発達支援センターの施設運営・支援に携わる経験をもつ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科科目は選択制ゼミ形式での特色を活かし、学生が主体的に学習できる様、ディスカッション等の話す場を設け、現場に出て活きる学びや現場で役立つ学びや、一人ひとりの個性・特性等を理解し、子ども、その人の良さ、持ち味に気づき、支援をしていく視点を養い、ポジティブに捉える視点・姿勢を学んでいく。自分の意見を発信したり、相手の意見を聞く経験をしながら、チームで行う支援や連携・協働に繋げる学びをしていく。現場職員の講義を交えながら、障がい児保育や支援の在り方について理解を深める。							
【到達目標】							
・自己認識理解から他者を理解していくこと、多視点・多角的に連携協働しながら支援をしていく重要性を理解し、チーム支援保育を知り、理解していく。 ・障がい特性等を理解し、その援助や関わり方、配慮等について多様な意見や視点を交わしながら自らの支援保育をイメージし、支援保育をつくる事ができる。 ・様々な福祉の形態、支援サービスを知り、学びを深める。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・児童発達支援ガイドライン ・保育所保育指針 ・適時配布				【授業外における学習】 施設見学(施設スタッフとのディスカッション等)・特別講師登壇			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 子どもの生活・遊びについて理解し、それから得る効果について学ぶ 【授業内容】 (古川＋祖田浩介OT) 生活や遊びから得る発達や成長について			9	【到達目標】 互いの専門性について知る 【授業内容】 (古川＋祖田＋佐藤) グループディスカッション		
2	【到達目標】 障がいのある人、子どもの支援を受ける際の計画～個別支援計画等について、その目的を理解する 【授業内容】 (祖田) 個別支援計画・策定会議、計画をする際の手順について			10	【到達目標】 さまざまな障がい特性について理解をする 身体の働きと情緒について知る 【授業内容】 (祖田) 身体の発達と気持ち・情緒の発達とつながりについて		
3	【到達目標】 保護者の障がい受容についてを知り、保護者支援・家庭支援の在り方、関わりを理解する保育所等訪問支援について学ぶ 【授業内容】 障がい受容について 保護者支援・家庭支援、相談支援について			11	【到達目標】 障がいのある子、人の環境について① 事例を通し、環境構成・関わりをグループごとにまとめる、共有する 【授業内容】 (古川＋祖田)ケース検討～グループディスカッション グループディスカッション・発表・他の視点に触れる		
4	【到達目標】 連携～職員・保護者・地域・専門機関について 協働の意味、意図について ① 【授業内容】 (佐藤)地域にある専門機関を調べる 障がいの支援、関係機関連携について学びを深める			12	【到達目標】 就労支援事業所について理解をする さまざまな人の特性を活かした社会との関わりについて学ぶ 【授業内容】 (特別講師：就労支援事業所施設長 松永) 利用者の仕事に触れる		
5	【到達目標】 連携～職員・保護者・地域・専門機関について 協働の意味、意図について ② 【授業内容】 個々調べたことを共有 グループディスカッション・発表・他の視点に触れる			13	【到達目標】 障がい児・者の環境・関わり等、テーマに沿って考えをまとめる 【授業内容】 ケース検討～グループディスカッション グループディスカッション・発表・他の視点に触れる		
6	【到達目標】 児童発達支援センターについて理解する 【授業内容】 施設見学 ことも発達支援センターつむぎ浦和美園 スタッフとのディスカッション			14	【到達目標】 自分の大切にしたい支援について考える、再認識する 現場スタッフの願いや専門性を知る 【授業内容】 施設見学 ふじみ野どろんこつむぎふじみ野ルーム② ディスカッション		
7	【到達目標】 自身が大切にしたい、様々な人との関わり、環境について認識する 【授業内容】 ケース検討 グループディスカッション			15	【到達目標】 定期試験を通し、これまで学んだことを理解し、記述することができる 【授業内容】 定期試験～発表		
8	【到達目標】 前半授業でのまとめ。学びの振り返りを行う。 多視点に触れる 【授業内容】 中間試験～発表			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							